

ALPS処理水の処分に関する

安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2023年2月

販促·魅力発信

- ALPS処理水に関する風評を抑制・払拭することに加え、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興や持続的な発展を後押しするため、経済産業省、復興庁、農林水産庁にて、2022年12月20日に「魅力発見!三陸・常磐ものネットワーク」を立ち上げた。
- ネットワークの取組の一つとして、2023年2月23日(木)から3月24日(金)を「三陸・常磐ウィークス」と称し、イベントの実施や、ネットワーク参加企業等による「三陸・常磐もの」の消費拡大を進めている。

三陸・常磐ウィークスの実施イメージ

イベントによる消費拡大





- 「魅力発見!三陸・常磐ものネットワーク」の協賛により「SAKANA &JAPAN FESTIVAL2023」を開催予定(「発見!ふくしまお魚 まつり」も同時開催)
- ◆ ネットワーク参加企業等の職員含め、多くの消費者の方に、 「三陸・常磐もの」を味わって頂く。

(開催イベント)

- ·代々木公園(東京) 2月23日(木·祝)~2月26日(日)
- ·万博記念公園(大阪)3月17日(金)~21日(火·祝日)















Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

弁当、社食、キッチンカー等による消費拡大

- 「三陸・常磐ウィークス」において、ネットワーク参加企業 等での弁当、社食、キッチンカー等を通じた「三陸・常磐 もの」の消費拡大を実施。
- 事務局のサポートの下で、企業等の従業員による「三陸・ 常磐もの」の積極的な消費を後押し。

注文可能なお弁当https://sjm-network.jp/lunchbox.html





社食での「三陸・常磐もの」の導入支援、キッチンカーの派遣も実施。





- ■「ごひいき!三陸常磐キャンペーン」の第2弾として、漁業関係者の皆様にご協力を頂きながら、東京ドームにおいて開催された「ふるさと祭り東京2023」にブースを設置し、**三陸常磐水産品の魅力を発信**。
- また、2月26日には、読売新聞朝刊全面広告にて、本取組が取り上げられた。

ふるさと祭り東京におけるステージイベントの様子



ふるさと祭り東京の採録記事



- 本年 2 月 21日、22日に開催された**水産見本市「シーフードショー大阪」**に、**三陸・常磐地域の事業者が参加**し、経済産業省も 出展をサポート。流通・小売関係事業者等に向けて三陸・常磐ものの魅力を発信。
- 本イベントにおいては、大阪鮓組合の方々にもご協力いただき、三陸・常磐ものの試食会も開催。
 来場された流通・小売関係事業者等の方々に三陸・常磐ものを実際に食べていただき試食会は大盛況でした。

シーフードショー大阪の様子



- 宮城県及び福島県にて漁業者団体及び県庁と連携し、小中学生を対象に県産水産物を使った料理教室を開催。
- 調理・試食を通じて各県産の水産物の魅力を伝えるとともに、パンフレットを用いて各県の水産業について学ぶ機会を提供し、若 年層に水産業を身近に感じていただきます。
- 今年2月~3月に計36回開催し、約460組(定員)の親子が参加予定。

実施メニュー例

銀鮭と若布の混ぜご飯



メヒカリと彩野菜のマリネ



ホヤニラ炒め



あんこうときのこのトマトスープ



Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

パンフレット(宮城の例)











- 三陸が誇る「わかめ」の国内消費を拡大していくため、「三陸魚介プライド わかめフェア」を2月1日~28日の期間で開催しており、経済産業省としても開催を支援。
- 「三陸魚介プライド わかめフェア」のもと、**宮城県内(51店舗)**において、**岩手県・宮城県の三陸沖で養殖される「三陸わかめ」 の特徴を理解し、その特性にあったメニューを各店舗オリジナルで提供している**。
- 春のはじまりとともに旬を迎えるわかめ。日本一の生産量を誇る三陸わかめは肉厚でしっかりしているのに柔らかいのが特徴。
- こうした取組を通じ、三陸地域の水産品・水産加工品の魅力発信を継続していきたい。

わかめフェアの模様



わかめの天ぷら



三陸わかめのアーリオ・オーリオ



茎わかめの青椒肉絲風



わかめと漢方牛のフリット



- 漁業者支援も含め、風評に負けない、地域の漁業や産業の活性化に向けた取組を支援するための事業を令和4年度補正予算・令和5年度当初予算に盛り込んだところ。
- こうした支援策が、縦割りではなく窓口を一本化して必要なところに必要な予算がスムーズに届くように、**経済産業局が取りまとめる形で政府関係機関(水産庁・岩手/宮城復興局・東北/関東農政局・東北/関東経済産業局・東北/関東運輸局・中小機構・JETRO等)が一体となって、説明会を実施。**

説明会の様子



石巻会場

日時: 令和5年2月8日(水)

13:30~16:00

場所: 石巻市水産物地方卸売り市

場石巻売場

参加者数:75名

(うちオンライン40名)



宮古会場

日時: 令和5年2月3日(金)

 $13:30\sim16:00$

場所: 宮古市市民交流センター

<イーストピアみやこ>

応募者数:57名

(うちオンライン37名)



水戸会場

日時: 令和5年2月1日(水)

13:30~15:35

場所: 水戸商工会議所

応募者数:55名

(うちオンライン45名)

- 経済産業省の「6次産業化等へ向けた事業者間マッチング等支援事業」(以下、販路開拓支援事業)において、福島県産品の販路拡大に向けて、小売り・イベント等による販売促進支援や企業間取引拡大に向けたマッチング支援をおこなっている。
- 販路開拓支援事業において、**2月に都内に展開するスーパー三浦屋にて常磐大漁市を開催**するとともに、水産加工事業者と流通事業者のマッチング支援を行い、2月に5件の成約事例があり。
- 引き続き、こうした支援を通じて福島県産品の販路拡大を進める。

三浦屋 常磐大漁市

- 2022年2月16~18日の3日間、三浦屋3店舗(コピス 吉祥寺店、国立店、ラムラ飯田橋店)にて、水産加工品 の販売会を開催。
- 常磐ものの水産加工品を首都圏の消費者に味わってもらい、 販路拡大を目指す。
- しまほっけ開き、鮮たらフライ等、福島県の水産加工業者4 者、5商品を販売した。





販路開拓支援成果(事例1)

- 貴千の「4種の揚げかま詰め合わせ」が兵庫県を中心に32店舗展開するスーパーと成約。
- 2月27日から全店で販売 開始。



▲販売商品(4種の揚げかま 詰め合わせ)

販路開拓支援成果(事例2)

■ 1月にマルリフーズの「松川 浦かけるあおさ」、「あおさ らーめん和風醤油」が東北 道のサービスエリア売店と成 約し、販売開始。



▲販売商品(かけるあおさ、 あおさラーメン)

- 官民合同チームは、R4年度「ふくしま海の逸品~福島県新商品開発プロジェクト~」において、支援事業者との共同エントリーにより下記2プロジェクトのメンバーとなり、新商品開発の支援を実施。
 - ✓ 福島応援!「お手軽ちぎり揚げ」プロジェクト(代表 岩下商店、いわき市)
 - ✓ 相馬原釜発「ゴロッと!たこカレー」プロジェクト(代表 ループ食品、相馬市)
- 2月3日に商品発表会が行われ、今後、福島県内の小売店等で販売予定。

お手軽ちぎり揚げ(イカ人参風・松川浦産アオサ海苔入り)



福島の郷土料理「いか人参」をイメージして練り込んだちぎり揚げ。



相馬松川浦の青さ海苔を 練り込み磯の風味豊かなち ぎり揚げ。

相馬原釜産ゴロッと!タコカレー(マイルド・タコスミ・ココナッツ)



ゴロっとした相馬原釜産のヤナギダコ、相馬産の野菜を使い、 食べやすくスパイシーなカレーに仕上げた。幅広い世代に召し 上がっていただけるように、3種のラインナップを用意。

- JETROでは、日本産農林水産物・食品の海外発信を強化するため、日本国外にある、日本産食材や酒類を使用・販売してい る、レストラン・小売店を「日本産食材サポーター店」として認定。
- 2023年1月現在、世界各地で店を構える日本産食材サポート店は、8,102店舗。三陸ブランドの確立や魅力発信を強化する ことを目的に作成されたブランドブック(SANRIKU JAPAN)を2023年2月にサポーター店にメールマガジンで紹介。
- 引き続き、サポーター店に対して、三陸・常磐もの等の情報発信を行う。

海外における日本産食材サポーター店認定制度



https://www.jetro.go.jp/agriportal/supporter/







FasyCookAsia アジア料理のミールキットを 販売するECサイト

詳細を見る



モロッコで愛される和のテイ

詳細を見る



スロベニアの本格的な和食レ ストラン



TATA SUSHI 最大限のおもてなしを提供す る異空間な和食レストラン

詳細を見る

詳細を目ろ



Niri restaurant & bar

アブダビの多国籍な客層に日

本食を提供

詳細を見る

Shin & Furoshiki Store

五感を通じて、日本の「粋」

をブラジルに伝える

Asai Kaiseki Cuisine ロンドンの本流懐石料理。料 メキシコで日本食普及の親善 理を通して日本の真髄を発信 大使に任命されたシェフの使

詳細を見る





5000点の日本産食材、日本と

の架け橋となる小売店

食スペース併設の生鮮スーパ 詳細を見る





https://www.tohoku.meti.go.jp/s hukko suisa n/topics/pdf/170407 promotion en.pdf

▲メルマガ配信したブランドブック

▲認定ロゴマーク

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見!ふくしま」の取り組みの一環として、福島県白河市で開催された「白河ミニだるま市」でのキッチンカー出店や、東京都渋谷区の代々木公園における「発見!ふくしまお魚まつり」の初開催により、福島県産品の流通促進の取組を実施。
- 2月11日に福島県白河駅前広場他で3年ぶりに開催された「白河ミニだるま市」にキッチンカーを出店し、福島県産食材を使用した「常磐あんこうバーガー」や「チキンオーバーライス」等の販売を行った。
- また、2月23日~26日に開催した「発見!ふくしまお魚まつり in SAKANA JAPAN FESTIVAL 2023」で海鮮丼やあんこうのパエリアなど11ブースを出店。4日間で34,000食を販売し、常磐ものの多彩なメニューを味わっていただいた。
- こうしたイベントの開催により、福島県産品の美味しさ・魅力を発信する取組を継続していく。

ミニだるま市へのキッチンカー出店(2/11)



▲会場の様子



▲常磐あんこうバーガー



▲チキンオーバーライス

発見!ふくしまお魚まつり@代々木公園(2/23~26)



▲会場の様子と主な提供メニュー

理解醸成

13

- 世界にも前例の無い東京電力福島第一原子力発電所の30~40年にわたる廃炉作業、また本年から長期にわたり予定されて いるALPS処理水の処分について、将来を担う若い世代が知り、考える機会にするべく、全国の高校を対象に出前授業を実施。
- また、兵庫県立明石南高等学校、岡山県立東岡山工業高等学校、島根県立松江農林高等学校、岐阜県立岐阜高等学 校、宮城県名取北高等学校などでは、学校のHPにおいても出前授業を実施した旨掲載いただいた。

出前授業の様子



▲R5.2.8 川越丁業高校



▲R5.2.9 西脇工業高校



▲R5.2.8 武蔵越牛高校



▲R5.2.13 松汀農林高校

2月8日 (水)

「東京電力福島第一原子力発電所 廃炉と ALPS 処理水について考える出前授業」

5 校時に、2年次理系生徒の「科学と人間生活」の授業の一環として、経済産業省原子力 発電所事故収束対応室の北野俊介さんをお招きし、「東京電力福島第一原子力発電所 廃炉 ALPS 処理水について考える出前授業」をしていただきました。

生徒たちは、原発事故の原因や当時の様子、現状と課題について説明を受け、ALPS 処理 水の海洋放出による風評被害について考えました。

東日本大震災の津波被害は知っていても、原発事故については詳しく知らない生徒が多 く、「今でも放射線を含む物質が全然処理できていないことに驚いた」「ALPS 処理水を初め て知った | 「放射性物質の安全性を具体的なデータとともに伝えることが大切だと感じた | 「今後原発についての情報に関心を持っていきたい」などの感想がありました。









▲明石南高校HP

出前授業の様子(続き)



▲R5.2.14 岐阜高校



▲R5.2.16 名取北高校



▲R5.2.18 鎌倉学園高校



▲R5.2.21 相馬総合高校

東岡山工業高等学校

経済産業省から出前授業がありました。

5日(水)選科後の電気科1年生を対象に、経済産業省から出前授業がありました。 災と原発事故からの復興に向けた取り組みについて説明がありました。



▲東岡山工業高校HP

15

地元紙(福島民報、福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞)において、安全性確保や風評対策の取組をまとめた新聞広 告を2月第4週に掲載。

新聞への広告掲載内容

ALPS処理水の処分について、安全性を確保し、政府を挙げて風評対策を徹底していきます

三陸・常磐ものの魅力発信

三陸常磐エリアの豊潤な海の 幸を多くの方に知っていただ き、味わっていただく「ごひ いき!三陸常磐キャンペーン」 を昨年10月に開始しました。

本年1月の東京ドームでの物産 イベント「ふるさと祭り東京」 (約34万人来場)で、漁業関 係者の方々のご協力を得て、 三陸常磐の水産物を多くの方 に買っていただきました。



三陸常磐の水産物の魅力を経済産業大臣、副大臣自ら発信

流通・小売事業者向け情報発信

三陸常磐エリアの水産物の取 引を安心して継続いただける よう、流通・小売事業者等を 対象としたシンポジウムの第2 回を東京で開催。

第3回のシンポジウムは、4月 にいわきで開催する予定です。



第2回ALPS処理水モニタリングシンポジウム (2023年1月17日TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター) (第1回は昨年10月に福島で開催)

ALPS 処理水に関する 全国での大規模な情報発信

全国の多くの方々に、知っていただく・考えていただくきっかけをつくるため、昨 年12月に全国規模でテレビCM、新聞広告、WEB広告等による広報を行いました。 また、ALPS処理水について、科学的根拠に基づいた情報をわかりやすくまとめた ウェブサイトを新設しました。





そのほか様々な取組を進めています

IAEAが継続してレビューを行った上で、放出前には包括的な報告 書を公表し、その内容を国内・全世界にわかりやすく発信します。

基金等により、漁業者等が事業を継続することを力強く後押しし ます。

12月に立ち上げた「魅力発見!三陸・常磐ものネットワーク」 を通じ、産業界・全国の自治体・政府関係機関を挙げた、三陸・ 常磐ものの消費拡大を実現していきます。





みんなで知ろう ALPS 処理水



- 2023年2月2日、訪日中のパニュエロ・ミクロネシア連邦大統領は岸田総理と会談。
- パニュエロ大統領は首脳会談後の共同発表にて、ALPS処理水の海洋放出について、以前に国連総会で述べたほどの恐れや 懸念はもはや有していない、我々が共有する海洋資産及び資源を傷つけないという日本の意図と技術力へのより深い信頼を 今や有していると発言。同内容は共同声明としても発出された。



岸田総理とミクロネシア連邦のディビッド・パニュエロ大統領との会談(2月2日)

- 2023年2月、PIF代表団(ブラウン・クック諸島首相(団長)、カブア・マーシャル諸島外務・貿易大臣、プナPIF事務局長等)が訪日し、岸田総理、林外務大臣、西村経済産業大臣とそれぞれ会談を行い、**ALPS処理水についても議論**が行われた。
- 岸田総理大臣から、ALPS処理水の海洋放出に関し、日本国民及び国際社会に対して責任を有する日本の総理大臣として、 自国民及び太平洋島嶼国の国民の生活を危険に晒し、人の健康及び海洋環境に悪影響を与えるような形での放出を認めることはないことを改めて約束する旨述べた。これに対し、PIF側は、ALPS処理水の海洋放出の安全確保に対する岸田総理大臣の決意を歓迎するとともに、引き続き日本と緊密なコミュニケーションを希望する旨述べた。両者は本件に関する集中的な対話の重要性につき一致した。
- 西村大臣及び林大臣からも、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、丁寧に説明を行った。

※PIF: Pacific Islands Forum (太平洋諸島フォーラム)



岸田総理とPIF代表団との会談(2月7日)



西村経産大臣とブラウン・クック諸島首相(2月6日)

PIF専門家への説明会

太平洋島嶼国・地域とのコミュニケーション③

- PIF事務局はALPS処理水の安全性に関して検証する、専門家パネルを独自に設置してい る。専門家パネルに対してはこれまで3回の説明会をオンラインで実施。
- 2023年2月9日に、ALPS処理水の現状に関するPIF事務局及び専門家向け説明会を 対面で開催。説明会では、日本側から、安全性を確保したALPS処理水の海洋放出は、 福島の復興に必要な廃炉作業に不可欠であること、及び、国際的に受け入れられている考 え方のもと、安全基準を十分に満たした上で行うため、日本及び太平洋地域に影響を及ぼ さないことについて、科学的根拠に基づき説明した上で、出席者との間で質疑応答を実施。



ALPS処理水の海洋放出動画の紹介

PIF専門家の福島第一原発視察

- 2023年2月10日、PIF事務局及び専門家の福島第一原発の視察を実施。
- 廃炉資料館において、福島第一原発事故の概要及びALPS処理水の海洋放出に係る展示動画を紹介。
- 福島第一原発内ではALPS、測定・確認用のタンク、移送・循環用のポンプ及びサンプリング設備を現場にて説明、質疑応答を 実施。



ALPSの概要説明



ALPS処理水のサンプルを見るPIF専門家



測定・確認タンクの説明

- 2023年2月、日米国会議員会議米側下院議員団(フレンチ・ヒル下院議員、マーク・タカノ下院議員、アレクサンドリア・オカ シオ=コルテス下院議員、マクスウェル・フロスト下院議員)が訪日し、西村経済産業大臣と会談を行った。
- 会談では、同議員団が今般の日本滞在中に福島県を訪問したことを踏まえ、福島復興と東京電力福島第一原子力発電所の 廃炉の現状につき西村経済産業大臣から説明した。
- 同議員団は、会談に先だって、20日に、経済産業省から福島復興や東京電力福島第一原子力発電所の廃炉・ALPS処理 水に関するブリーフィングを受けるとともに、21日に福島県を訪れ、東京電力福島第一原子力発電所等の視察を行った。



福島第一原発を視察する日米国会議員会議米側下院議員団

西村大臣と日米国会議員会議米側下院議員団

安全確保

- 昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、定期的に地元紙(福島民友、河北新 報、岩手日報、茨城新聞(福島民報はチラシの折込))に広告を掲載。
- 本年2月も2回掲載しており、今後も月1~2回の頻度で継続的に実施を予定。

新聞への広告掲載内容(左上:第14回、右下:第15回)

広 告



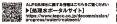


皆さまからの声におこたえします

- トリチウム濃度を管理しているのはわかりましたが、放出する量は、 どうなるのですか?
- ALPS処理水の海洋放出に伴うトリチウムの量は、事故前(運転中)の福島第一 原子力発電所の放出管理目標値と同じ、1年あたり22兆ベクレルを下回るよう 適切に管理1.ます。また、廃炉に支険がない節用でできる即り放出量を小さく 国内外の原子力施設では各国の規制基準を満たした上でトリチウムが放出されて おり、年間22兆ペクレルを上回る量を放出している施設もありますが、これらの

施設周辺でトリチウムが原因と思われる影響は見つかっていないとされています。* ※出典:ALPS処理水について(令部3年3月) 経済差角含作成資料 https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/nairo_ocenaui/pdf/202103.pdf(15頁参唱)



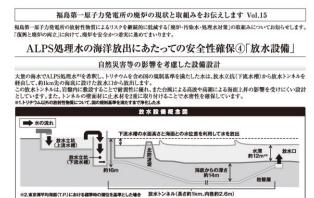






▶[皆さまのご意見をお聞かせください]





皆さまからの声におこたえします

広 告

- Q 沿岸から約1km離れた場所で放出するのはなぜですか?
- 沿岸から約1km離れた場所で放出し、拡散することで、発電所の北側沿岸から 希釈用として収水する海水への影響(放出した水の再循環)を抑えるためです。



